

令和4年度 附中アンケート（保護者）結果から分かること

<評価の良い項目>

- ・1・2・3の自主性を大切にした授業づくりについての設問と、11の「生徒の自主性を大切にしている。」に対して8割近く「あてはまる」という評価であった。これは昨年度も高い評価であったが、さらに5～10ポイントの上昇が見られた。
- ・5が昨年度と同様の高い評価であることから、家庭でも学校のことを楽しいと語っている生徒が多くいることが分かった。
- ・9・15の評価が高いことから、懇談や電話連絡、通信やHP等を活用した生徒・学校生活の様子についての情報提供ができていたことが分かった。

<評価の良くない項目>

- ・6の「生徒は、自主的な活動（生徒会活動や課外活動）に積極的に参加している。」に対する評価は、「どちらともいえない」「あてはまらない」といった評価が他の項目よりも多くなっている。昨年度より低く評価している割合は減少しているものの、積極的に参加できていない生徒もいるため、それに対する働きかけもしていく必要があると考えられる。

<前年度との比較>

- ・前年度と比較して大きな傾向の変化はありませんが、どの項目においても「あてはまる」「ややあてはまる」の評価が高まり、「あてはまらない」の割合が減少していた。学校としても感染症対策をとりながら、様々な活動をコロナ前に近い形で再開させてきたことや生徒がこれまでの伝統を取り戻そうと意欲的に働きかけられたことによると考えられる。

<記述欄について>

- ・本校の教育方針やそれに基づく授業、学級・学年経営について、高く評価している意見が多く寄せられた。学校として大変嬉しく、心強く思うとともに、今後も高い期待に応えるべく努力をしていく必要があると考えられる。ただし、寄せられた意見の中には、十分な対応ができていないことや納得いただけていないこともあるため、一つ一つの意見を真摯に受け止め、改善に努めていく必要がある。
- ・新型コロナによって縮減していた行事については、感染症対策を取りながら、徐々にではあるが元の形に戻していくように進めてきた。とはいえ、制限が加わった状態が続いていることから、参加する機会の拡大や活動内容の充実を求める意見をいただいている。行事を通して生徒が活躍できる機会を確保するとともに、保護者同士や教員と保護者が交流する場としても機能するよう、実施方法・内容については工夫をしていきたいと考える。
- ・制服検討について新たに項目立てし、意見を伺った。現在の制服と私服の併用を支持する保護者が多い傾向にあるが、保護者目線においても私服・制服にそれぞれにより点・問題点を感じている。この結果からも全員が納得する結論を出すのは大変難しいが、寄せられた声を参考にしながら、方向性を決めていきたい。また、今年度の取組により、制服の着方や服装について、何が正しいのかが分からなくなっているとの声もあったため、改めて生徒たちと話し合う機会をつくり、ルールを全体に周知していきたいと考える。
- ・個人PCの使い方や公共のマナー、個人情報の取り扱いなど、こちらが気付いていないことや指導ができていないことについて指摘があった。改善に向けて取り組みたい。
- ・評価方法について説明が不足を感じている声やその評価となった理由が不明であるという御意見が寄せられた。生徒にはもちろんのこと、保護者に対しても繰り返し説明をしていく必要性を感じているとともに、納得いく評価・次につながる評価となるよう説明や生徒へのアフターフォローに努めていく必要があると感じている。

令和4年度 附中アンケート（教員）結果から分かること

<評価の良い項目>

- ・1・2・3の自主性を大切にした授業づくりについての設問には昨年同様、100%「あてはまる」「ややあてはまる」と評価している。また、17のICT機器の活用についても同様の評価をしている。ここから、教員は自信を持って授業ができていることが表れていると考える。

<評価の良くない項目>

- ・7の「生徒は、『公共を意識した態度』が身に付いている。」に対しては昨年度に引き続き評価はよくない。校内でできることは限界があるものの、道徳の授業や日頃の生徒指導の中で繰り返し指導していく必要があると考える。また、生徒の実態把握にも教員自身が努める必要があるともいえる。
- ・12の「リーダー・フォロワーの育成」については「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」の割合が増えた。行事などを通してそれらを体験させるだけでなく、取組について学年や学級で賞賛するなど、育成に向けた取組を進めていくことが大事だと考える。

<前年度との比較>

- ・全体的に昨年度よりも「あてはまらない」「あまりあてはまらない」の割合が縮減している傾向にある。昨年度の反省を踏まえて改善に努めているといえる。
- ・6の自主的な活動の参加については前年度よりも「あてはまる」の割合が増加している。行事等を新型コロナによる制限や縮減から、元の形に戻していったことにより、生徒の活躍する機会を確保できるようになったことが大きく関わっていると考えられる。

<記述欄について>

- ・自主自立の精神の下、主体性を大切にしながらよりよい教育活動を実現しようと、教員集団・教員と生徒がともに力を合わせて取り組んでいることが明らかとなった。互いに学び合える機会を大切にし、他の学校の模範となるよう努力を続けていけるとよいと考える。
- ・公共での生徒の立ち振る舞いについての意見も多くあった。自主自立とはどのような姿か、自由がある反面、責任も伴っていることを再度確認していく必要がある。また、生徒に権利を主張させるばかりでなく、「私たちが求める附中生の姿」「社会の中でどのように振る舞うべきなのか」を教員からも語っていく必要があるとも考える。
- ・制服検討について新たに項目立てし、意見を募った。現在の制服と私服の併用をまずまず運用がされていると捉えている反面、議論がジェンダーや体温調節の観点からずれていると感じている意見やルールが曖昧となり、指導がしづらくなっているとの意見が挙がっていた。正解がない問題でもあるため、教員・生徒・保護者が納得できるよう議論を促していきたいと考える。
- ・よりよい学校運営のために、様々な観点からの意見が出され、すぐには変更できない内容もあるものの、改善に向けてアプローチをしていきたい。

令和4年度 附中アンケート 生徒の結果から

<生徒のリーダーチャートから>

- ・全体的には全ての力において昨年度同様に70～85%近くの生徒が「できている」と評価しており、学級に対して満足していることが伺える。また、学年別には3年生と1年生が評価が高く、2年生は評価を低くしている傾向にある。なお、7月との比較においては、大きな差は見られなかった。また、昨年度と比較すると若干ではあるが評価は低くなっている。
- ・6つの力の中で、全ての学年において昨年度同様に対話力と安心力、達成力が高く、7月と比較しても差は見られなかった。これは、様々な場面で自分の意見を表出することができ、男女の垣根なく互いのよさを認め合うことができる附中生の特性が顕著に表れているといえる。また、この傾向は昨年度と変わらなかった。
- ・6つの力の中で規律力は生徒達にとって振り返りやすく、比較的辛めの評価をする傾向にあるが、附中においても昨年度同様に基本的な学習・生活習慣は70%と他の力と比べて評価を低くしており、7月と比べてもわずかではあるが評価は低くなっている。なお、学年で見ると2年生は特に評価を低くしている傾向にある。また、この傾向は昨年度と変わらなかった。
- ・個々の項目については、全学年共通して、互いに学習で教え合いができる「支え合い」、ありがとうを伝え合っている「感謝」、友達の間を関連させて発言できる「つながり」、異なる意見や提案をよく聞いてまとめる「合意」、自分たちの学習や生活をよくするための「改善」などを85%以上「できている」と評価し、これは全ての学年で共通している。その中でも「支え合い」「改善」については7月よりも評価を高くしている。昨年度と比べると「感謝」「合意」「改善」の評価を高くしていることから、仲間を大切にしながら自主自立を実現させようと努めていると考えられる。
- ・反対に60%前後しかできていないと低く評価をしている項目は、授業中に私語をしない「学習」、あいさつや学校のきまりを守る「生活」、授業中にグループで協力できる「協力」で、全学年共通しており、7月よりも評価を低くしている。なお、2年生においては、けんかやトラブルを話し合いで解決できる「修復」を低く評価しており、7月よりもさらに低くしていた。これらは昨年度も同様であったが、廊下や教室を整理整頓できる「整理」については、低く評価していた項目から外れた。

<記述内容から>

- ・生徒がそれぞれの力に関わって具体的にふり返ることができている。特に、どの学年もクラスの中で積極的に意見を出し合いながら、仲間同士で助け合っていることが分かった。また、安心力に関わることについては、仲間の個性を認めたり、学級全体でよい雰囲気を作ることができていたりすることが記述からも分かる。反対に改善が必要なことは、特定の集団や個人が要因となっていることが伺える。また、自律力や規律力については、リーダーを中心に呼びかけているものの、なかなか改善できていないようで、当たり前前することを当たり前にするなどの難しさを感じていると考えられる。
- ・自分自身が頑張っていることについては、前期を振り返りながら課題となったことやできなかったことを改善していこうという内容がほとんどであった。

令和4年度 附中アンケート 3者の結果を比較して分かること

<アンケートの結果から>

- ・保護者、教員とも附中の学校生活や授業について肯定的に捉えていることが分かる。また、それにより生徒達も全ての力について高い割合で「できている」と評価しており、学校の働きかけが生徒の向上につながり、保護者の満足や信頼につながっているといえる。特に意欲的な授業への取組、自ら考えて表現することや安心できる教室の雰囲気があることについては、それが顕著に示されている。
- ・自主的な活動については、保護者、教員とも「どちらともいえない」「あてはまらない」という割合が20%あった。ただし、昨年度よりも「あてはまる」「ややあてはまる」の割合が10ポイント程度増えており、両者がともに変化を感じていることが分かった。生徒達も自主的な活動に関わる項目が昨年度よりも上昇していることから、3者ともよくなっているということで一致している。ただし、生徒は規律力の評価を低くしていることから、あいさつや授業中の私語を我慢するなど日常のルールを守ることにも目を向け、自分たちの力で改善・維持していくことができるよう、引き続き促していきたい。
- ・公共への態度について教員は70%近くが身に付いていないと捉えており、保護者の捉えと大きく異なっている。さらに、生徒も規律力の「校外」の項目の評価が76%とそれほど低くないことから、教員が求めている姿と生徒・保護者の認識にズレが生じている可能性が考えられる。教員自身も附中生として求める姿を語るなど、生徒達に現状を振り返らせるとともに、あるべき姿を考えさせていきたい。また、一部生徒だけができていないとも考えられるので、アンテナを高くしつつ個別に粘り強く指導していくとよいと考える。
- ・いじめや心の悩みの対応について、教員と保護者で捉え方に差異があり、保護者の20%近くが「どちらともいえない」「あてはまらない」と回答している。（ただし「あまり」も含めて「あてはまらない」は共に数%）教員は真剣に対応しているつもりでも、生徒が学校では話せない悩みや不満を抱えたままとなっており、家庭で吐露していることや生徒・保護者が納得できる状況にまで至っていないことがあると考えられる。生徒達も評価が高い安心力の中で、「仲間」「尊重」の項目が他と比べて低いことから、いじめにつながるような行動をさせない教室風土の醸成に教員は努めるとともに、起きてしまった場合においても生徒情報を共有し、これまで通りにチームで対応していくことが必要である。
- ・安全の配慮や評価、進路指導については、保護者、教員とも同じくらいの割合で「どちらともいえない」「あてはまらない」の回答があった。（「あまりあてはまらない」の割合は教員の方が高め）改善の余地があると捉え、現状を把握し、よりよくなるように引き続き働きかけていくことが必要である。

<記述内容から>

- ・保護者、教員、生徒が、学校生活や授業、行事に対して肯定的かつ前向きに捉えていることが分かった。そして、附中のよさを実感し、よりよくしていこうと3者が思い、それぞれの立場で働きかけようとしていることも分かった。
- ・改善点についても自主性や規律、安心に関わることで3者が共通している内容が見られる。問題を共有し、3者がスクラムを組んで解決に向けた努力ができるとよいと考える。
- ・制服検討については、ここで明らかとなった保護者・教員の意見を紹介しながら、年度末にはどのような方向性で進めていくのか生徒たちに判断をさせていきたい。また、学校での服装についてのルールについても生徒自身で考え、守ることができるよう、教員はフォローしていきたい。
- ・このようなそれぞれの生の声を聞くことは、自らを振り返り、違った視点から学校を見つめ直す貴重な機会であると考えられる。今後もこれらの声に耳を傾け、できていることに自信をもつと共に、反省すべき点は真摯に反省するなど、今後の学校づくりのため有効に活用していきたい。